

情勢報告

環境制御技術、着実にスキルアップ！～土佐あき新施設園芸システム勉強会開催～



今作のナス炭酸ガス施用実証ほの成果(途中)を紹介する環境制御推進担当の新田主任(左上)

環境制御技術の早期取得・向上に取り組む土佐あき新施設園芸システム勉強会は、3月4日、JA土佐あき本所で第13回勉強会を開催し、生産者(ナス、ピーマン等)15人が、①先進地視察(2月、栃木県)報告、②今作での各生産者の取組成果、③実証ほの成果についての情報共有を行いました。農業改良普及課は、③の実証ほにおける施設ナスの25トンどりを目指した栽培法の間接報告と意見交換会での助言等を行いました。

参加した生産者は互いの栽培管理の課題や疑問点について積極的にアドバイスし合う等、着実なスキルアップが見られています。

引き続き、農業改良普及課は本会員の技術の向上を支援し、産地全体への技術の普及に取り組みます。

～やってみよう!生育診断～安芸集出荷場青年部勉強会開催



勉強会に向け、ほ場で生育調査を行う青年部会長とデータを記録する普及指導員

3月17日、安芸集出荷場で、安芸集出荷場園芸研究会青年部勉強会が開催され、生産者6人が参加しました。今回は、青年部会長が講師となり「ナス栽培における生育調査の手法」「生育調査に基づく春先以降の生育バランス管理」を学びました。

農業改良普及課は、事前に青年部会長、営農指導員とともに青年部3人のほ場で生育調査を行い、そのデータを取りまとめ、講演の基礎資料を作成しました。

今後も、農業改良普及課は青年部会長や関係機関と連携し、魅力ある勉強会の開催を支援します。

中芸地区環境制御技術勉強会を開催



炭酸ガスのダクト施用について説明する環境制御技術普及推進担当の新田主任

2月19日、奈半利町で中芸地区環境制御技術勉強会が開催され、11人が参加しました。参加者は換気や温度管理を考慮した炭酸ガス濃度設定及び局所施用のダクト設置方法等について熱心に情報交換を行い、「せっかく炭酸ガス発生機を導入したからには効果が出るように使いこなしたいねえ」といった声が出ていました。

農業改良普及課は、炭酸ガス施用や温度管理、かん水管理等の環境改善のポイントについて質疑を交えながら講習しました。

今後も環境制御技術の普及を継続して行い、収量増加や品質向上につながる情報提供を行っていきます。

情勢報告

中芸地区野菜園芸研究会が合同研究会を開催

生産者からの質問に答える
農業技術センターの研究員

2月25日、JA土佐あき安田支所で中芸地区野菜園芸研究会が、農業技術センター病理担当研究員によるすすかび病、黒枯病等の難防除病害対策に関する講演会を開催しました。16人が参加して、病害防除を目的とした換気方法や予防剤・治療剤それぞれの特性を活かした散布方法について意見交換しました。

農業改良普及課は硫黄粉剤による病害防除実証試験の中間結果や来年度の環境制御技術普及加速化事業について情報提供しました。

今後も病害防除実証試験等を継続しながら、情報提供を行っていきます。

唐浜集出荷場研究会ピーマン部会が勉強会を開催



話を熱心に聴く生産者

2月29日、安田町で唐浜集出荷場ピーマン部会が光照射追熟技術の勉強会を開催し、生産者8人が参加しました。

嶺北農業改良普及所の山口普及指導員からカラーピーマンにおける光照射追熟技術の利用例を紹介してもらいました。生産者からは「電気の高さはどれくらいがいいのか」「夏場の処理に差がないのはなぜか」などの質問があり、光照射追熟技術についての関心が高まりました。

農業改良普及課は赤ピーマンの品種を紹介し、次作はいくつかの品種で試験を行うことになりました。今後もJAと連携し、品種試験などを支援していきます。

学び、教え合う～地域の篤農家ほ場を新規就農者が視察～

園主から2本垣根仕立ての誘引ノウハウを
聞き入る新規就農者

3月2日、安芸集出荷場園芸研究会ナス部会の28園芸年度新規就農者1人が同部会の篤農家ほ場を視察し、園主が実践している2本垣根仕立てや土づくり、肥培管理について学びました。園主から長年の経験で培った栽培技術を惜しみなく伝えられ、視察者からは「具体的なイメージが掴めました。来年は2本仕立てに挑戦したい」との声が出ました。

農業改良普及課は新規就農者が2本垣根仕立てに関心があると聞き、古くからこの仕立て法に取り組んでいる篤農家への視察を企画しました。今後も次代を担う新規就農者と産地のベテラン生産者との交流促進を支援していきます。

情勢報告

今の高知ナスの品質は？ 関係職員で共有！ーナス品質向上推進協議会ー



各場の品質や規格の状態を確認

3月7日に園芸連本所で園芸連安芸駐在所長、JA土佐あき営農指導員6人、農業改良普及課職員8人が出席し、ナス販売会議での目慣らしで使用する県内各出荷場から出荷されているナスの品質の現状把握を行いました。

この活動は、昨年12月に設立したナス品質向上推進協議会の取組の1つで、年間通しての品質状況や現状の各出荷場の品質を把握し、栽培指導に活かしていくことを目的にしており、1回目の開催となりました。参加者からは、「この出荷場は、そろっている」「同じ規格でも出荷場によって違う」という意見がでました。

今後も農業改良普及課は、園芸連、JA営農課、出荷場と連携を取りながら管内のナスの品質向上に向けた活動を行います。

おいしいナスをたくさん食べてね！ なす祭り in 横浜の開催



とっておきのコツを教えちゃうきネ！

3月5日、JA土佐あき消費宣伝連絡協議会による「第14回なす祭り in 横浜」が横浜市中心卸売市場で開催され、主要品目のナスやピーマン、ユズなどの消費宣伝を行いました。

今回、協議会からは女性農家や関係機関など17人が出席し、神奈川県学校給食関係者を中心にした参加者30人に対して、ナスなど特産品料理8品の講習や試食、“環境にやさしい農業”の出前授業を行いました。参加者は、ナス料理の豊富さにびっくりし、“美味しい”といいながら料理を食べていました。

農業改良普及課は、講習資料の作成や出前授業に興味を持てるように天敵昆虫（実物）の準備等を行いました。今後も、ナスなど特産品の消費拡大への取り組みに対して支援していきます。

加工用ワサビ定期巡回指導



順調に生育している加工用ワサビの雨よけ栽培

農業改良普及課では、補完品目として導入を進めている加工用ワサビについて、3月11日に栽培ほ場5か所をJA指導員2人及び生産者3人と巡回し、今年の生育状況と今後の栽培管理などについて、現地指導を行いました。

今年は暖冬傾向であるため生育が全般的に早く、株の状態などを観察しながら、今後の管理などについて確認をしました。また、農業改良普及課からは特に今後問題になる病害虫管理について指導を行いました。

出荷は4月中旬から始まる予定です。農業改良普及課では、今後も有望品目である加工用ワサビの面積拡大に取り組みます。

情勢報告

来年も良質な酒米を生産するぞ！－蔵元との意見交換会－



杜氏から醸造工程の説明を受ける参加者
（田野町：濱川商店の醸造蔵を見学）

3月15日にJ A土佐あき特産部酒米研究会主催で安芸市入河内産の酒米「吟の夢」を使った日本酒を醸造している安芸市、香美市、田野町、芸西村の蔵元4社との意見交換会が開催され、生産者と関係者を合せて24人の参加がありました。

農業改良普及課からは、27年産の品質分析の結果を報告しました。入河内産の酒米は高知県の目標値を上回っており農家間のばらつきが少なかったことから、蔵元からは「品質にばらつきがない米は安心して使えるので入河内産の酒米がもっと欲しい」との意見をいただきました。生産者も自信を持って来年度の栽培に臨めるとしています。

農業改良普及課はJ Aと協力して、今後も酒米栽培の技術支援を行っていきます。

平成 27 年度庄毛集落営農組合総会と集落営農への取組（室戸市）



総会風景

2月25日に、室戸市の吉良川公民館で組合員6人と室戸市、J A、農業改良普及課等の関係機関5人が参加し、平成27年度庄毛集落営農組合総会が開催されました。

庄毛集落営農組合は室戸市で第一号の集落営農組織で、農業改良普及課は後に続く組織の模範となるように、室戸市と協力して活動を支援しています。設立後、最初の通常総会となるため、役員会で次年度栽培する協業品目や総会資料について組合員と協議し、総会で活動計画等が承認されました。

これからも、農業改良普及課は室戸市と連携して、集落営農の推進をしていきます。

庄毛集落営農組合「ソバ祭り」の開催（室戸市）



ソバ祭り会場風景

3月13日に吉良川町西町集会所で、地域住民やJ A、室戸市等関係機関の職員30人が参加し、庄毛集落営農組合主催で「ソバ祭り」が開催されました。

このイベントでは昨秋に収穫したソバを、庄毛集落営農組合がソバ打ち名人の松寿禅寺伸玄和尚しょうじゅぜんじしんげんの協力を得てソバ打ちし、地域の協力者などに感謝の気持ちを込めてざるそば等を振舞いました。

農業改良普及課は役員会や総会で組合のビジョンに掲げた地域貢献のあり方の一つとして地域イベントの参加や開催を勧めており、その結果今回の取組が実現しました。遊休地でのソバ栽培とあって、地域住民からも喜ばれ、地域の賑わいの創出や組合の売上増加に繋がるように、農業改良普及課は室戸市と連携して、組合活動を支援し法人化へ誘導していきます。

情勢報告

百石地区集落営農準備会が先進地視察研修に参加



集落営農研修の様子

農業改良普及課が企画調整を行い、3月3日に、奈半利町百石地区集落営農準備会のメンバー4人、JA土佐あきと奈半利町職員6人が参加して、幡多地域の2組織（農事組合法人荷稻米・米クラブ、農事組合法人田野川甲営農組合）に先進地視察に行きました。

田野川甲営農組合では具体的な集落営農の進め方を研修しました。参加者は、「協業と作業受託の違い」や「機械がある場合の集落営農の進め方」等熱心に、質問していました。

今後、農業改良普及課では、ビジョン作成や営農計画樹立を支援し、百石地区で集落営農組織の設立が円滑にできるように支援していきます。

農業改良普及推進協議会の開催



熱気あふれる意見交換が行われました

2月26日、農業改良普及課は、田野町ふれあいセンターで、普及推進協議会を開催しました。農業改良普及課から、平成27年度の普及指導活動の成果や来年度の産業振興計画について説明を行いました。当日は、農家の代表者やJA、市町村等関係機関の代表19人の構成員が出席し、「環境制御の取組は素晴らしい」「新規就農者を確保するためにサポートハウスを建設している」等の意見を聞くことができました。

農業改良普及課は、構成員の意見を次年度の普及指導活動に活かして行きます。

普及活動高度化全国研究大会受賞者の普及活動を学ぶ



農林水産大臣賞を受賞した普及活動を発表する善明主任技師

3月14日、安芸総合庁舎で環境農業推進課専門技術員、普及指導員23人が参加し、昨年11月に開かれた第3回農業普及活動高度化全国研究大会で農林水産大臣賞を受賞した福岡県南筑後普及指導センターの善明嵩英氏を講師に迎え、農業改良普及課の職場研修を開催しました。

講師の善明氏から、「長期に発展し続けるアスパラガス産地の育成～若い力こそが野菜産地の未来を拓く～」と題した発表があり、担い手の育成、規模拡大、技術向上それぞれについて関係機関と連携して短期間にアスパラガス産地を育成している素晴らしい普及活動事例を聞くことが出来ました。参加者から、「技術特化ではなく産地の担い手をどう育てていくかの視点が普及活動に必要不可欠」との感想があり、今後の普及指導活動に生かせる良い研修が出来ました。